

「つながれ！未来を支える若馬たち」

松江市生馬公民館

1 生馬地区の概要

人口 3,785 人の小規模地区である。松江市の中心市街地から少し離れた田園風景の中、公民館は、高専、小学校、幼稚園、清心養護学校等の学校に囲まれている。周辺の学校と連携が取りやすい立地である。

2 事業の趣旨

生馬公民館には、若い人たちの姿があまりみられなかった。次代を担う「若い人たちの活躍できる場を作りたい。」ということで、4 年前に「若馬会」を結成した。しかし、若い人たちだけのお楽しみ会ではなく、小・中・高校生などさらに若い世代や、高齢者世代、学校関係、他の若者団体ともつながりを持ち、地域活性化につなげたい。

そこで、次の 3 つのめざす姿を考えた。

(1) 若馬会のメンバーが実行力を高め、自分たちのやりたいことができるようになって欲しい。

(2) 若馬会と他団体等とのつながりを広げ、深めて欲しい。

地域他団体や人とつながることができれば、若馬会への理解が深まり、協力が得やすくなる。また、考え方の幅が広がり、そこから、新たなアイデアが生まれることが期待できる。

(3) 若馬会が持続可能な組織になって欲しい。

今後、安定的に継続するために、小、中、高校生、高専生が、将来若馬会に入るようにしかけていく。

3 具体的な取組内容

(1) 実行力を高めるための仕掛け(公民館職員による見える化のすすめ)

ア ホワイトボードを使おう！

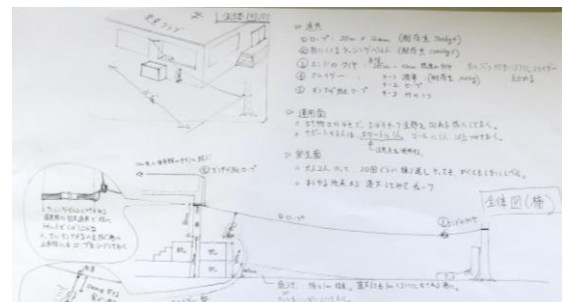
何もないところから、自由な発想が生まれることを期待。議事録にもなる。

イ 企画書を書こう！

個人的な企画内容を、メンバーに伝えるためのツールとして活用。書くことで自分の考えも決まる。

ウ 設計図を書こう！

ダイナミックなモノを作成するためには、イメージ図を作成することが必須。対外的に説明をするのにも有効だった。



ターザンロープの設計図

(2) ダイナミックなモノの製作

(たくさん製作した中の 2 例紹介)

ア 7 月夏まつりで、レトロゲーム等に使う巨大スクリーン (4×6m) を作成した。

素材は竹とダンボール。無料で、手に入りやすい材料を使う。竹を切ったり、運んだり、組み立てる作業も、メンバーみんなでやれば楽しい。



巨大スクリーン

イ 11月名尾が丘まつりで、子どもたちに楽しんでもらうためターザンロープ（全長14メートル）を作成した。



ターザンロープいざ出発

(3) つながり

ア **with** 生馬青少年を育てる会

10月、生馬小学校5、6年生対象の宿泊合宿で、肝試しの企画運営を任された。

イ **with** 生馬小学校

9月、生馬小学校4年生（16人）の社会科の授業で、若馬会のプレゼンをした。



生馬小学校4年生全員で作った若馬会新聞

ウ **with** 中・高・高専生

夏まつりや名尾が丘まつりのボランティアで、中学生5人・高2人・高専生1人が参加した。このうち、3名は若馬ジュニア、高専生は若馬会のメンバーとして活躍している。

エ **with** 地域の先生

若馬会のメイン資材である竹について学んだ。竹を伐る適期が冬であり、波板で囲えば、8mの竹が50

本保管できることが分かった。11月、地域の先生の指導を受け、竹置き場を作成した。

ターザンロープの安全面について学んだ。建物が破損しないためのロープのかけ方や、子どもたちがロープから落下しないための工夫などの指導を受けた。

オ **with** 若者他団体

安来市の yamasa club や古志原ヤング古志原のメンバーとの意見交換会をした。他の活動やモットーを聞き、刺激になった。

4 評価と成果

(1) 若馬会メンバーにとって

実行力、コミュニケーション能力、協調性、製作のスキル等が上がった。

(2) 小・中・高校にとって

子どもたちは、ダイナミックな若馬会の企画で、大いに楽しめた。ボランティアに参加して自己有用感の高まった生徒もいる。子どもたちが将来的に若馬会に入れば、持続可能な団体となる。

(3) 地域にとって

連携が進み、若馬会の活動（夏まつり等）にジョイントしたいという地域の人も現れた。

5 今後の課題と見通し

(1) 企画実現のため、ハードスケジュールだった。⇒メンバーの負担を軽減していく必要がある。

(2) ミーティングに時間がかかる。⇒要点をまとめ、時間を延ばさないよう工夫していく。

(3) 人材不足⇒新しい人材の確保が必要。広報活動に力を入れ、新たな人材の発掘をしていきたい。

（文責：主任 山崎さつき）